

■利用者満足度を高める取組み①

ヒノキの香りに包まれた木造建築で自然に近い保育環境を実現

千葉県市川市・社会福祉法人泉の園 風の谷保育園

「自然と共に」のコンセプトを実現した木造建築

千葉県市川市・社会福祉法人泉の園は今年4月、風の谷保育園をオープンした。広々とした床張りのランチルームから、大きなデッキ、園庭まで風が吹き抜けるような開放感があり、木の香りと自然に包まれた理想の子育て環境に、子どもたちも保護者も大満足ようだ。

千葉県市川市北国分駅から歩いて8分ほど。緑豊かな閑静な住宅街に、少し懐かしい雰囲気の木造の建物が見えてくる。近づくにつれて漂ってくるヒノキの香りが印象的だ。子どもたちや保護者は、毎日、木の香りに包まれながら風の谷保育園の玄関に迎えられる。

風の谷保育園は、今年4月にオープンした。市川市が実施した公有地での保育園運営主体の公募に対し、社会福祉法人泉の園が提案した建築計画が前提になった。自然に近い木造建築とすること、そして自然エネルギーを活用すること。日本の風土に適した国産材を



▲1階のランチルーム。自然のなかで食べるようにと、木の香りが漂うように設計されている。自然のなかで食べるようにと、木の香りが漂うように設計されている。



川副園長は、これらの木材について、直接購入、手配し、施工会社に支給する「施工支給」とすることを市に相談し、材料費を抑えた。木材費も最終的には見積もり額の2倍以上になったが、開校後の使用で森を守り、環境に配慮している姿勢に感動した南木曾木材産業㈱が、この事業を将来への投資と受け止め、見積り額を引き受けてくれたという。

園内では自然エネルギーもできる限り活用する工夫を凝らしている。また、電磁波の身体への影響にも配慮し、施設にキュービクル(変電設備)を設置しなかったため、使用電力を100アンペア以下に抑えている。その代わりに、井戸水をくみ上げ、デッキ全体にミストを放水することで、夏の冷房使用時の省エネにも寄与している。

調理室を中央に配置して「食」を豊かに楽しむ

木造建築の場合、消防法で保育室は1階に限られるため、風の谷保育園も1階が保育室、2階が子育て支援センターになっている。

1階保育室の中心は、家族が集まるリビングルームのような感覚で使用されるランチルーム。大きなヒノキを中央に配したランチルームの空間は、デッキ、さらにその先の園庭へとつながり、外の風が保育室を駆け抜けるような開放感を味わえる。

甲斐恵美主任は、「調理室は保育園の人気の場所の一つです。子どもたちは覗いてみたくて興味津々なのですが、衛生面から自由に出入りできるところではないので、それなら見えるようにしよう」と試みましたが」と説明する。

ガラス戸をおとして調理スタッフの様子が見えたり、調理スタッフの当り、調理スタッフに緊張感もあつたようだが、次第にこの雰囲気になれて、「毎日、おいしいという元気な声が聞こえ、顔がみえるので作っていて楽しく、作りがいがある」と好評だという。調理室の面積も広々。作る人の動線、動きやすさに配慮した適正な

広さが確保されている。戸外に開かれた環境が子どもたちの食を誘うのか、おもしろいように食べる子どもが増えた。暑い夏の間も食欲を落とすことなくすくすくしたという。

素材を活かしたやさしい味付けは、誕生会や保育参観では保護者からも好評。4月の終わりに、家では食べなかつた野菜をほとんどの子が食べるようになり、保護者から「作り方を教えてほしい」とたずねられたそう。

4月から半年が経過し、子どもたちの様子について、甲斐主任は「個性豊かに、自分を自由に表現して育っているように感じます」という。夕方、保護者が迎えに来ても帰らないうちの子も出てきたというエピソードもある。「居心地がよくなったのか、建

物に何か子どもたちを引き止める力があるのかなと感じています」(甲斐主任)

満足しているのは保護者も同じようだ。「建設中からこころをこめて利用したいと思っていました」と語ってくれたのは、2歳児、1歳児の父、青山さん。

「間伐材を利用したり、子どもに触れるところには塗料を使わないなど、環境にも配慮しつつ、たくさんのお木をふんだんに使っていて、あせもがでなかつたのは木が湿気を吸うからでしょうか。子どもたちが家に帰ると、ヒノキの香りが髪や体に残っていて、ほっとします。このような建物を公共の施設として利用できることに感謝しています。子どもたちが一日の大半を自然豊かな空間で過ごすのはすごく幸せなことだと思います」

施設の概要

社会福祉法人泉の園 風の谷保育園

〒272-0836 千葉県市川市北国分4丁目10番3号
TEL 047-375-2700
TEL 047-375-2700
FAX 047-373-5556

理事長 長 安藤 成幸
副理事長 川副 孝夫
開設 平成20年4月1日
定員 60人(0歳児6人、1歳児9人、2歳児11人、3歳児11人、4歳児11人、5歳児12人)
職員 22人(保育士 保育助手15人、助産師1人、看護師1人、栄養士1人、調理師 調理補助2人、事務1人)
その他の事業 病後児保育(定員4人)、特定保育(定員4人)、一時保育(定員4人)、障害児保育、産休明け保育(生後57日から) さかえ・こどもセンター(子育て支援センター)

関連施設 さかえ保育園(市川市北国分1丁目12番23号)

メールアドレス kazetanani@sunny.ocn.ne.jp

コンセプトに提案した保育園づくりに、市川市も全面的に協力する姿勢を示し、計画から3年余りかけ、木造建築の保育園が完成した。

建物に使用したのにおもに木曾ヒノキ、ヒバ、杉、松、栗、樫、クスノギなどの国産材。興味深いのは、通常は廃棄される間伐材の芯の強さを着目し、それらを構造材として使用していること。さらに、鉄骨や金具、接着剤なども使用せず、すべて組んでいく伝統工法の技術を用いて

福祉医療 最前線

市で初めて保育園にできた病後児保育室。奥の部屋の壁紙はもちろろん、園内の子どもたちが接触する外、内壁には修正用や絵巻用。塗料は一切使っていない。

川副園長が付けている。「扶養の範囲のなかで働ける人、家庭を維持しようとしてる人を助けられないのはおかしなことだ」

保育園での病後児保育の実施も、市川市では初めて。「子どもが病気になることも防げる場所がない、私も仕事を休めない。困った挙句に坐業で熱を下げて保育園に預けに来るケースもあります。子



どものが病気になることも正直に「なんとかならしてほしい」と頼める環境をつくりたいと思っています」(川副園長)

病後児保育では病気がかかったときには対応できないが、病後にゆったりと経過をみる場所として近隣の保育園の利用者も利用できるようなった。

「国も病後児保育には力を入れ始めていますが、職場でも看護休暇を普及させて、子どもが病気のときにはきちんと休める環境作りが必要だ」(川副園長)

今、3歳未満児の保育ニーズが高くなり、風の谷保育園でもすでに当初の予定人数を超える人数を受け入れており、希望者全員を受け入れられない状況にある。

一時保育についても、通常、親の介護や、自身の通院などで固定的に一時保育を利用している人が多く、リフレッシュで使用している人を受け入れられないことにも困



▲2階は子育て支援センター。手動のいすやテーブルは奥園になった幼稚園から譲ってもらったリサイクル品。新しい家具と一緒に使って調和させている。曲線を描いている間伐材には釘も使わず、すべて「組み」で構造材にしている

語ってくれたのは、2歳児、1歳児の父、青山さん。

「間伐材を利用したり、子どもに触れるところには塗料を使わないなど、環境にも配慮しつつ、たくさんのお木をふんだんに使っていて、あせもがでなかつたのは木が湿気を吸うからでしょうか。子どもたちが家に帰ると、ヒノキの香りが髪や体に残っていて、ほっとします。このような建物を公共の施設として利用できることに感謝しています。子どもたちが一日の大半を自然豊かな空間で過ごすのはすごく幸せなことだと思います」

自然空間のなかで感性を身に付けて生きる力に

社会福祉法人泉の園 風の谷保育園 園長 川副 孝夫氏

私たちは自然の中に存在していますが、子どもたちはもっとも自然に近い存在ですから、保育の場は「自然と共に」あることコンセプトです。そして、自然の美しさや自然の恵みを知ることができるよう、いかに自然に近い保育環境をつくるかということがいづれのテーマです。

建物の中は生活する場ですから、化学物質を使わない、有毒なものを使わない等、健康に対して安全を、と配慮していますが、実は、目的はそのような建物をつくることだけではありません。

子どもたちには、保育園の園庭だけでなく、園庭の外の緑地も含めた大きな自然空間のなかで、好奇心、美しいものや、自然に触れることで得られる感性、感覚を小さい頃から身につけて、その基を礎をこれから生きていく力の源にしていってほしいと願っています。

「準耐火の木造建築なら2階建てが認められますが、その場合、化学製品を使用している集材材を使わないわけにはいかないの、結局、今の規制は環境にはあまりよくない状況をつくっているのかもしれない。今回のような理想的な建物があったら、奇跡に近いのかも知れません」と、川副園長は感慨深げに語った。

社会福祉法人、設計者、行政の思いが一つになって完成した木造建築。自然との共存、循環を考えたこれからの施設整備のあり方に一石を投じる好例といえる。



市で初めて病後児保育を実施

川副園長や甲斐主任は、さかえ保育園や子育て支援センターにおいて地域の親の声を聞いていたため、風の谷保育園では、そのなかでいちばん大きな課題と捉えていた特定保育や一時保育、病後

児保育にも対応した。

甲斐主任は指摘する。「働きたい気持ちがあつても、なかなか定員の空きがなく、預ける場所がないために、「保育園は簡単には入れないでね」と、申請する前にあきらめてしまう人がいかに多いか。もしこの地域にもう一つ保育園ができたなら、そういう人たちに